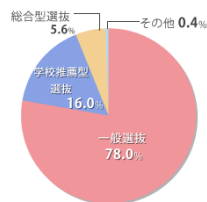


国公立大学志望者は、
まず一般選抜での受験を
考えて受験に対応できる
学習をスタートさせるべき
でしょう。

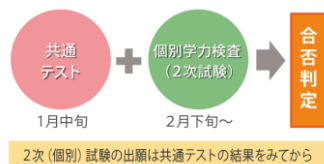


数値は2021年度入試のもの（文部科学省資料より）

次に国公立大学の一般選抜の仕組みについてみていきましょう。国公立大学の一般選抜は、1次試験的役割を果たす「共通テスト」の得点と、大学別に実施される「2次試験（個別学力検査）」の得点の合計で可否を判定するケースが一般的です。

国公立大学志望者は、1月中旬に実施される「共通テスト」を原則受験しなければなりません。自己採点を行った後、志望する大学に願書を提出します。注意したいのが国公立大学の出願期間です。国公立大学の出願期間は、共通テストの約1週間後からスタートし、約10日間となっています。今年度は1/24(月)～2/4(金)が出願期間でした。

思うように得点できなかった場合は、当初考えていた出願校を変更しなければならなくなることもありえます。出願時になって慌てないよう第1志望・第2志望・第3志望のように事前に複数の候補を挙げておくことが必要でしょう。

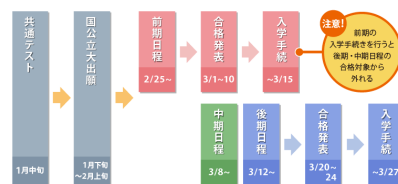


各大学で実施される2次試験（個別学力検査）は2月下旬から行われます。

2次試験は「前期日程」「後期日程」の2つの日程に募集人員を振り分けて選抜する「分離・分割方式」という制度で実施されます。受験生は「前期日程」と「後期日程」にそれぞれ1校ずつ出願できます。また、一部の公立大学では「中期日程」を設定する大学もあります。これらをあわせると国公立大学は最大3校の受験が可能となります。ただし、前期・中期・後期の出願期間は同じだということを覚えておきましょう。

さらに注意しなければならないのは、「前期日程」で合格して入学の手続きを行うと「中期日程」「後期日程」を受験していても、合格の権利を失ってしまうということです。つまり、「前期日程」の合格者は「中期日程」「後期日程」の可否を確認することなく「前期日程」で受験した大学への入学の判断を迫られることとなります。また、前期日程と後期日程の募集人員の割合は8：2と「前期日程」の割

合が高くなっており、昨年度の本校における前期日程合格総数は98、後期日程合格総数は36となっています（中期日程合格総数は6）。



2次試験の入試科目は共通テスト同様に大学によって異なります。また、同じ学科でも日程により異なるケースがほとんどです。前期日程の入試科目は、一般的には文系学部で「外国語、数学、国語、地歴・公民」から2～3教科、理系学部では「外国語、数学、理科」から2～3教科が課されます。ただし、東京大学、一橋大学、名古屋大学、京都大学など一部の難関大学では4教科を課す学部・学科もあります。入試科目や重視される科目によって、必要となる受験対策も変わってきます。志望校の入試科目や配点、共通テスト・2次試験の配点比率などはきちんと押さえておきましょう。〔参考・引用：河合塾 Kei-Net〕

【実力テストの振り返り ～可能性を信じて～】

【1学年主任より】

あっという間に1年間が終わってしまいます。今よりももっと早く、3年間が終わります。やり残したことや教科に限らず不安要素はないですか。あるのであれば、今のうちに不安要素を解消し、心新たに新学年を迎えよう。「なんとかなるや」はなんともしません。「脚下照顧」自分の足下をしっかりと照らして、自分の輝かしい将来を夢見ながら、自分らしく一步一步確実に成長できるように頑張ろう。誰の将来でもない。自分のたった一度の人生のために。後悔ないように。

【2学年主任より】

「先の見えない不安」は、「目の前のことを積み上げながら」減らしましょう。自分以外の事象についてもっと思考を深めていくことです。メタ認知を上げることで、客観性が増し、多くのことに冷静かつ臨機応変に対応しやすくなります。目指す自己を作り上げるために、自己以外の事象について思考を深めていきましょう。

みなさんにはまだまだ時間・そして無限の可能性があります。あなたならできる。あなたなら自分のやりたいこと・やるべきことを見つけられはず。「焦らず、自分を否定せず、自分を信じていこう。」